

広 報



MISHIMA

k e n s y o u k a i

第46号
【令和2年10月】

三島博士顕彰会



磁石のおもしろさを学ぶ

広石小学校4年生が顕彰室を見学（令和2年9月10日）

● 発 行 者 ●

兵庫県洲本市五色町広石中90-5

「三島博士顕彰会」

TEL0799-35-1166 FAX0799-35-1167



▲ジルコニウム合金の研究は、原子炉材料としてその安全性に大きく貢献し世界の学会から注目されました。

良績博士は大正10年、徳七博士の長男として東京に生れ、昭和19年東京大学卒業、同24年東大工学部大学院を修了して助教となり、冶金学担当を経て38年原子力工学科の核燃料工学、基礎工学の教授となり、日本の原子力開発創世期からの第一人者であります。ジルコニウム合金の研究は、原子炉材料としてその安全性に大きく貢献し、世界の学会から注目されると共に、世界的な名誉賞であるクロール国際賞を受賞、

また、原子力平和利用研究への貢献により、米原子力学会よりシーボルク賞が授与されました。良績博士は専門の原子力工学の他に、昭和21年博士の発案で東大切手研究会を結成。自ら撮った写真が郵政省(現郵便事業株式会社)発行切手の構図用写真として採用される等、切手製造への貢献により郵政大臣表彰を受けました。又、50年から7年間東大の野球部長も務めるなど趣味、スポーツの分野でも活発な活動をされました。

新しい磁石が誕生した
しゅん間でした。(中略)
その磁石は「MK鋼」と
名付けられました。三島さ
んの養子先と生家の頭文
字をとったものです。また
この時、使い道はわかりま
せんでした。しかし、これ
は未来をつくる仕事である



▲三島良績博士の著書

原子力安全性の世界的権威者

三島良績博士



三島良績博士(一九二一〜一九九七)は原子力安全性の世界の権威者で、原子力の平和利用と安全確保のために、自らの研究と共に学会の指導者として重要な役割を務めた世界的な工学博士であります。

郷土が生んだ偉大な工学者

三島徳七博士



三島徳七博士(一八八九〜一九七五)は洲本市五色町出身の工学博士で、マグネットの三島として世界に知られ、二十世紀の化学産業の進歩発展に、学術上の礎を築いた偉大な工学者であります。一九五〇年に文化勲章受章。

MK鋼。聞きなれない名前かもしれませんが、飛行機が天空を飛ぶことや、自動車が行くことに大いに役立ってきた強力な磁石鋼です。このMK鋼は、三島徳七さんという工学博士が発明しました。(中略)当時の磁石は同じ日本人研究者が発明したKS鋼というものが最も強力でしたが、非常に高価で、生活の中で役立つことが難しいものでした。KS鋼よりも強力で、しかも安価でつくることができるMK鋼は、形や大きさを変えても強い磁力をもつたままなので、今日でも多くのエレクトロニクス機器に用いられています。MK

鋼は、私たちの便利な生活を支えてくれているのです。(中略)三島さんは、ニッケル鋼とアルミニウムの合金には磁石の性質をもつ可能性があるかと確信していました。その時点では、まだ証明はできていなかったのですが、あらゆる金属の性質を知りぬいていた三島さんは、どんなに実験に失敗してもくじけることはありませんでした。(中略)三島さんは、そのけずりくずを見て、息をのみました。助手が今けずった合金が、機械にへばりついてはならないのです。「なっている……。これは磁石になっている。しかも相当に強力なものだ。」



新しい磁石が誕生したしゅん間でした。(中略)その磁石は「MK鋼」と名付けられました。三島さんの養子先と生家の頭文字をとったものです。またこの時、使い道はわかりませんでした。しかし、これは未来をつくる仕事である



▲広石小学校に寄贈されたMK鋼モニュメント

と、三島さんは機械にへばりつく合金のけずりくずの未知なる用とに、心ときめかせ思いをめぐらすのでした。

※兵庫県教育委員会
兵庫県道徳副読本 小学5・6年
「心がつむぐ兵庫のきずな」より抜粋しています。

身の回りで使われている磁石

私たちの暮らしに必要なほとんどの電気製品のモーターやIH調理器、スピーカーなどには磁石が使われています。また、カセットやビデオテープ、フロッドピーディスク、磁気カードでは、小さな磁石の粉によって情報を記録させているのです。

学んで然るのち 足らざるを知る

三島徳七博士が好んで揮毫された漢文であります。博士は生涯この志をもって学び、研究に精進されました。そして、この志は長男良績博士に引き継がれました。



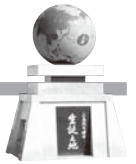
親子揃って 親子的権威者、この二人には我が故郷の血が通っています。

第24回 定例総会を中止し 書面決議を実施

令和2年度第24回三島博士顕彰会定例総会につきましては、当初4月19日(日)に開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの健康と安全面を考慮した結果、総会を中止し、書面による決議を実施することとしました。そして総会資料と回答ハガキを送付し4月末までに会員の過半数の承認回答を頂きました。ただ今年度感染拡大により、行事の中止もあると思いますが、状況を見ながら計画を進めていきたいと考えております。

本年度行事の中止について

- ① 子供の集い体験学習
広石小学校児童を対象に8月8日(土)広石小学校体育館にてコマ作りと大ゴマ回しを予定していましたが参加人員の関係で中止となりました。
- ② 科学のふしぎ三島教室
指導で来られる東京工業大学の学生の来島が見込めないため、やむなく中止となりました。
- ③ 会員見学会
11月22日(日)実施に向けてバスを仮予約していましたが、バス旅行では3密が避けられないため、本年度については中止としました。
- ④ 講演会
広石小学校への協賛行事として予定していましたが、小学校は中止となり、今後のインフルエンザの流行等を考えますと、独自開催も難しいため中止せざるを得ないと考えております。



三島博士顕彰室 見学記



令和2年9月10日(休)広石小学校4年生19名が見学に訪れました。
 徳七博士の生い立ちからMK磁石鋼の発明に至るまでの軌跡を描いたDVDを鑑賞した後、顕彰室にて博士の業績についての説明を聞いたり、MK鋼の磁力の強さを体験し、博士の発明が私達の生活に数多く生かされていることを学びました。



顕彰室を見学した児童からの感想

ぼくは、じしゃくが反発するのがおもしろかったです。リニアモーターカーの仕組みもわかりました。また三島けんしよう室にいたいです。

楠 快星

ぼくが、一番心にのこった言葉は、「努力せず得られるもの」これは、嘘の幸福である。という言葉です。ぼくも、努力して幸福を手に入れたいです。

つみ田 ゆうき

ぼくが一番心に残ったのは、「努力こそ未来を切り拓く道となります。」という言葉です。この言葉どおりにぼくも努力して未来を切り拓いていきたいです。

松原 煌己

令和2年度 三島博士顕彰会 役員名簿

(常任理事、監事まで)

会 長	小林 広志
副会長	濱田 和夫
事務局 長	片山 仁史
会 計	藤本 實
常任理事	平山 邦雄
	平山 喜博
	大石 真嗣
	紺原 健司
	片井 正
	川淵 一正
	土橋 泰博
	藤井 亘
	佐野 幸伸
	喜住 幸史
	藤本喜代治
	齋藤 雅之
監 事	尾中 啓二
	西田 泰典

令和2年度上半期の 顕彰会日誌

- 4月4日 常任理事・監事会
- 令和元年度会計監査
- 令和元年度事業・収支決算報告
- 令和2年度事業計画及び予算原案作成
- 4月末日 第24回定例総会を中止し書面決議に
- 令和元年度事業及び決算承認
- 令和2年度事業計画及び予算設定承認
- 5月14日 役員会
- 6月20日 常任理事・監事会
- 今年度の常任理事・監事・顧問・理事合同会議は中止決定
- 7月20日 役員会
- 8月8日 子どもの集い体験学習中止
- 8月29日 役員会
- 9月10日 広石小学校4年生19名 顕彰室見学